

# 生駒市学校教育のあり方検討委員会教育環境向上部会 平成30年度第1回会議 議事録

日 時 平成30年7月12日（木）9時30分～  
場 所 生駒市役所 401・402会議室

## 出席者

委 員 5名（樋口部会長、松嶋委員、高島委員、伊藤委員、川上委員）  
事務局 6名（真銅部長、吉川次長、辻中課長、城野課長、滝澤課長補佐、  
牧井係員）

### 1 臨時委員の紹介

### 2 部会長選任

### 3 案件

#### （1）会議の進め方

事務局（会議の進め方について、事務局から説明）

部会長 会議の進め方についての質問はあるか。

部会長 働き方改革について、最初に話し合いを持ってほしいとの事務局からの依頼です。また、全体会を入れると、第3回部会までの間でひとつの方向性を出すスケジュールになっています。8月10、17、21日と現場の先生方のワークショップがあり、現状を踏まえて意見等が出てきますので、部会を進めていくうえで重要なものとなります。結果については、事務局の方から説明があります。全体的な流れとしては、このような形で進めていくのでお願いします。それでは、続いて働き方改革について国の状況について事務局からお願いします。

#### （2）働き方改革に関する国等の状況について

事務局（働き方改革に関する国等の状況について、事務局から説明）

部会長 説明に対して、意見、質問を願はるか。様々な課題があり、真正面から取り組めば取り組むほど難しい要素がある。事務処理的な仕事ではなく、人を相手にする仕事なので、改革自体が難しい

と思う。感想でもよいので、各委員の声を聞かせていただけたらと思う。

委員 国からの通知資料は、学校の業務改善の内容があげられている。学校現場を見ると、改善がなかなか難しいところもあると思う。教職員の意識の改革を図っていかないと形だけのものになり実現はできない。意識改革が大きなウエイトを占めている。もう一つ、教職員が自分の仕事業務をふり返ってみるといふ提言ができる。1日の中でどんな仕事をしているかふり返る。ふり返ることで、仕事の軽減できることもある。目標をもちながら、仕事の優先度と順番といった、教職員の中で自分の仕事を改めて見つめなおすところから取組む。生駒市の教職員のアンケートの結果もあるので、これに関わってもう一度発言する。

部会長 ありがとうございます。

委員 たくさんの時間を費やしている。児童生徒との関わりなど、様々なことを全部しないといけないというものの勤務時間が長い。11時間や12時間がおられる方もいる。昔も今も変わらないという感じだ。海外であれば、クラブ活動は地域にあるようなスポーツクラブに行くことがあるが、生駒市においては不可能だと感じている。子どもの数が減り、クラブの数も減り、どこの学校に行こうかという選択をする中学生がいるということも聞いている。萩の台の方は、小学校は7クラス、南中は6クラスしかない。数が減ると、職員の数も減り、それに対応するコミュニティーパートナーシップが大切になり、地域の方と関わりをもたないといけない状態になっている。時間的に、朝7時から夜7時までの勤務は大変だなと感じている。

部会長 具体的なものも含めて話していただいた。

委員 わたしも12時間は働いている。考えてみたら、自分以外の仕事までしてしまう。学校の教師は、子どものためと言われたら、悩みながらもやってしまう。そして、自らを苦しめてしまう。それをスパッと時間で切ってしまう人は、親や子どもから見ると、どうだろうか。もしやってしまうと、関係は切れるのでないか。子どもたちへの過重な負担をさせないということでスポーツ庁から週に2日休む、土日どちらか休む、2時間までの練習にする、休みの

日は3時間までにするというのがある。バスケット協会は、子どもたちの試合数が足りないので、新たな試合を組んでいる。土日がまたつぶれるが、先生方は、子どもたちが勝って喜ぶ姿を見たい。また、新しく始まったグループリーグは強豪校とそうでない学校との対戦は組まないの、よく似たレベルのチームを集めてそれなりの試合ができる。始まるとどうなるのか。小学校も陸上記録会は、子どものためにと言われたら熱中症覚悟で行っている。そう考えると教師の意識改革は難しい。スパッと切れる人がいい教師かと言われるとそうではない。

部会長 ありがとうございます。

委員 子どもたちがお世話になっている部活動、練習予定を見ていると自分の時間を割いて指導しているのがわかる。働き方改革の資料を見ると、一つは、単純に議論されているように学校の先生を労働者の働き方改革ととらえるのはどうかとを感じる。先生方は、教育に携われて志高く保ち、子どもたちに接していただいている。世の中が変わっていく中で、志が高く積極的に関わろうとする方が返って苦勞するため、サポートする仕組みが必要と考える。たとえば、若い先生が初めて担任もち、部活を持つなど、要領よく仕事を線引きできずに苦勞する。そういう場合、学校の先輩方、周りのスタッフが助けられるような仕組みがあればと思う。働き方の実態は、先生方一人一人ばらつきがあるのではと考える。そのあたりをはっきりつかむために、ここにあるタイムカードで時間を把握するということが必要です。授業の準備にかなり時間がかかっていることは資料からわかる。これは、一人一人の先生方に職人気質的なものがあるように思う。先輩の先生の授業を見学することや、自由にやっていることを見学し合える雰囲気があればいいのではないかと思う。

委員 昨年、中学校の役員をして、朝のあいさつ運動とか夏休みに学校通う機会が多くあった。夜8時30分でも朝から止めてあった車が、まだ止めてあるという現状。管理職は職員室にずっといることや、先生方が帰るまで帰れないと聞いた。先生方と話していると、夕方近くは疲れているなあと感じ、負担になっているのではないかと思う。昔に比べ今は、保護者同士のつながりが強く、SNS等で意見交換ができ、情報が伝わりやすくなっているところがある。先生に対しての保護者の攻撃力が大きなものになってい

る。自分自身は昭和育ちで、怒るところは怒るみたいな。今は、あまり言いすぎるとほかの保護者が集団で問い合わせしてくるということもある。私自身は、仕事も家庭も楽しくをモットーとしているが、先生方の家庭の方が心配になる。自分の子どもが見えているのだろうかと思ってしまう。自分の子どもが見えたと、ほかの子どもをかわいく思えるのかなと感じる。働き方改革は、働きやすい環境になれば変えることができるのではないかと思う。

部会長 職人（教員）気質があって、まず、意識改革が大事。教師も労働者だが、一般労働者的な働き方の改革があてはまらないのではという意見もあり、現場の忙しさを感じている。それぞれの立場で意見を出していただいて進めたいと思う。今日は、具体的な中身ではなく、ご意見をいただいた。これから、具体的に進めていくが、生駒市の状況に進めさせていただいてよいか。委員の皆さんからいただいた意見に対して事務局の方から意見はあるか。

事務局 ご意見の中に先生方には教員の気質性、職人氣質という言葉が出ていました。また、労働者の中でも特殊なのではと感じました。日ごろ進めていく中で、先生方にも家庭があるという点のところをうまく返していけるいくつかの提言の方を期待させていただきました。

### （3）本市の状況について

部会長 国からの内容を軸にしながら、話を進めることになる。一つ一つ検討すると時間がないため、ポイントを絞って進めていきたい。次は、生駒市の状況について事務局より説明願う。

事務局（本市の状況について、事務局から説明）

部会長 ありがとうございます。今日のメインはこの部分であり、生駒市の現況についての中身から話し合いを深めたい。資料に目を通してもらいたい。事務局に質問だが、アンケート用紙の結果の中で抜けているものはあるか。

事務局 グラフでないものがある。

部会長 あえて出していないのか。

事務局 出勤時刻はグラフ化していない。勤務時間についてグラフ化している。

部会長 設問 1 1 の出張に伴う負担に関するグラフがないが。

事務局 掲載していない。

部会長 設問 1 2 の定期検診の受診についてもどうか。

事務局 先生方はみんな受診しているので抜いている。

部会長 資料 4 ですが、教育委員会から下ろす中で方向性が出たのか、各学校からの取り組みの状況を踏まえ下ろしているのか。

事務局 5月の定例学校訪問の折に、先生方の状況や取り組みの報告がある。その際に、勤務の軽減等を伝えている。

部会長 ノー残業デイは、各学校は時間が来たら帰るのか。

事務局 部活の休養部にかかわるが、水曜日は部活をなしにして休養部にすると比較的帰りがやすいところはある。ただ、勤務時間終了したらすぐに帰るのは無理。ある程度の時間は勤務している。

部会長 サイボウズで出退勤時刻を管理している学校は少ないが、やっているところはすごいと思う。

委員 習慣化しないとなかなか難しいところがある。先生方の時間の管理ですが、出勤時間は大体毎日決まっている。退勤時間は決まっていない。しかし、大体決まっている先生方もいる。サイボウズの記録は、自己管理するために使うということ。

部会長 A中学校は、実態的にどうか。

委員 校長が過労死裁判等を意識し、過労死という言葉を使いもしものことを考え、先生方を守るためにやった方がよいと話していただいた。便利なシステムになっており、エコの点では、電気つけっぱなしにはなるが。電源を落とすと退勤扱いになるが、修正がで

きる。職人氣質というか機械に管理されることへの不満はあるものの、校長先生の言葉のおかげでやっている。帰りも翌朝に修正をかけられるのは便利である。タイムカードは、実情に合っていない。生駒市のサイボウズは実態に合わせることができる。小学校の先生曰く、持ち帰り仕事は、裁判では勘案されない。車に乗っていない人はどうしているのだろうかと思うほどの荷物。家に帰っても先生をやっているため、家庭の子どもはいやだろう。結局、家に帰っても教師なため、時間では計れないものがある。

部会長   ありがとうございます。小学校に勤務していた姉がいるが、袋をたくさん持ち帰っていた。昔、電車で採点していた姿を覚えている。

委 員   サイボウズによる出勤と退勤の時刻の管理ができるに、たった2校しかやっていないのはどうしてか。

事務局   使うと便利ですが、サイボウズを扱う先生方が少ない。パソコンを使って仕事はするが、サイボウズにまでつないでシステムに入る先生が少ない。

委 員   もう一つ、ノー残業デイは生駒市全体で決まっていらないのか。

事務局   市役所は、水曜日がノー残業デイとなっており、基本的には帰る。この日に残っている場合は、ほかの日に振り替えている。

委 員   学校でもできますよね。銀行でさえノー残業デイでいやっている。振り返ることはできるか。

事務局   仕事の関係で残らなければならないときは振り替えてくださいという方法でやっている。5時15分になったら閉めますというのではなく、帰りましょうという形で行っている。

部会長   ありがとうございました。便利なシステムは、他郡市を見ても入っているシステムではなく、各教員にパソコン一つという環境は利用しない手はない。教材研究の時間が忙しいというあたりは、本業だから忙しいのが当たり前。むしろ、子どもとのかかわりや教材の準備はきりがない。そこに、集中するための時間が少なくなることを探るのが大事である。教師の仕事として、一日の中で

どんなことに時間を使っているのかというバランスが見えてくるといいのではと思いつながりながら現状調査をみた。教材研究は、本業だからきりが無いのと同時に時間をかけなければならないが、現実として時間をかけているのかというと、違うところに時間を費やしているのではと思う。バランスを崩している要素が、何かかわかると働き方改革の方向性が見えてくる。他にいかがですか。

委員 ストレスや悩みの内容では、中学校は部活動の指導が一番に上がっている。小学校は長時間勤務の長さ、保護者PTA対応も上がっている。中学校は、部活動のことが上がっているがジレンマがある。保護者や子供の期待が大きいし、効果があるのも分かっている。休養日の実施や教師・子どもの負担軽減という流れの中で、保護者の中にはもっと鍛えてほしいという声も少なからずある。一方で、こういう形で負担軽減のために休養日を増やし練習時間を減らし、期待に応え、効果を出すという意識がジレンマとなっている。解決として、保護者や地域の方に理解してもらうために、教師の実態や情報を伝え、保護者を含めてともに進めていく。そうでなければ、教員は、国県市の方針を受けて改革をしていくたくてもできない。また、長時間勤務する先生が熱心だという評価される考えはどうかと思う。そのためには、様々な教員の評価のシステムを見直さないといけない。遅くまで残っている先生は、がんばっているとは思っている。遅くまで残っていることが熱心な先生であるという意識を変えていかないといけない。教材研究は時間がかかる時もある。中学校では、部活の指導が放課後にあるので教材研究ができない。部活の後に残っていると遅くなる現状がある。

部会長 ありがとうございます

委員 中学校の先生は空き時間があるが、何をしているのか？

委員 教材研究をしている。

委員 中学校の先生は空き時間の時は、ノートを見ることや教材研究をしようと思ったらできるのか。

委員 できる。

委員 小学校の先生は、子どもたちに張り付いているから、教材研究をするのが大変だと思う。今は、土曜日が休みだから、いろんな自費研修に行き自分の好きな分野を広めていかないといけない。自費だから行っても行かなくてもいいが、DVDや本も出ているので教材研究ができる。昔は、学校につくのも出るのも7時。今も昔も変わってない。教材研究は、土日を利用した。これは、家族にとってどうなのかという話だが、子どもは理解してくれていたように思う。親の一生懸命さを理解し、親の姿を見て子どもが育つのだから、私の姿を見て子どもも考える。勤務時間に関する意識改革は、PTAに対する改革でもある。

部会長 教材研究に関しては、中学校は空き時間ある。余裕はあるが、生徒指導等がある。やはり、中学校に関しては働き方改革の中で、部活動の在り方が大きな柱になる。ジレンマということがあるが、部活の効果と期待が非常に多いので割り切れないところがあるのは事実である。部活で培う信頼関係が生徒指導につながるが、こればかりを頼ってはいけないとも感じる。改革を進めるためには、踏み出さなければ現状は変わらない。進めれば、マイナス面もついてくる。ここに目を向けると踏み出せない。リスクは、踏み出しながら違う角度から考えていく方法しかないと考えている。

委員 部活の問題ですが、資料の中の運動部活動の方針を読み、先生方のご指導の時間を考えると平日に2時間、土日は3時間がはつきり書かれているが、短いかと思うのが素直な意見です。仮に、部活の時間を短くして、その後どうなるのか。結局、塾の宿題が増えるのではと心配です。運動部として書いているが、吹奏楽部は、一日中、土日も練習しています。先生も熱心なのでこの方針沿って動くのは難しいのではと思います。このあたりは、やり方がないのでと考えた場合、自主練の枠をとることや、外部講師に担当してもらい顧問の先生は時間超過にならないように工夫しないと、なかなか踏み出しにくい。

部会長 吹奏楽は体育系ですよ。これも含めて、部活動が人格形成の教育の手段としての部活動と勝ち負けがつくスポーツという部分がついてくる。究極、社会体育にしてしまうと、学校に部活がないというのは味気ない。ここら辺が、非常に微妙な部分です。管理職からの職員への声掛けやお互いの助け合いとかがいい形で数値



が出ており、いい雰囲気が出ている。忙しく大変というのがあるながらも、人間関係で支え合いながらやっているように感じている。

委員 教員のアンケート20ですが、過重勤務防止に向けての中で一番多いものが教員増員である。土日出勤の振替完全取得とか、部活動の支援やノー部活デイ、授業時間数の削減が出てきている。大阪教育委員会から出されたものを見ると、生駒市の結果とほとんど同じである。さらに、長時間勤務解消の方法も同じである。大阪市では、2番目に学校行事の見直しがある。3番目は、会議の時間の短縮。小学校は会議が多い。中学校の2番目は時間数の削減行事の見直しがあった。働き方改革に関しては、大きな差はない。このあたりが教員の増員につながればいいが、教員が増えると仕事の分担はできるが、個々の子どもに関わることが増えるから負担減になるのかと感じている。ノー部活動デイの設定が上がっているが、部活をしない日を作ってもいいという意見がある。

部会長 ありがとうございます。ほかに意見あるか。

委員 教員増は可能ですか。学級数によって・・・。

部会長 正規の定数を示されたものはある。また、市独自のものがあるため可能性としてあるが、予算が伴うことなのでどこまでできるのか。一番、現場が望んでいることには間違いない。調査をしていただけで、生駒市の特徴として出ているものはあるのか。結果的に全国と同じような傾向となっていると考えていいのか。今後は、生駒市としての要素を考慮するべきことがあるのであれば、頭に入れて話し合いを進めていきたい。

事務局 国の調査結果とよく似ている。中学校で不規則な勤務の割合が高くなっている。生徒指導面で小学校よりも占める割合は多いので遅くまで仕事をしてしまうことになる。小学校は、先生方の空き時間や会議の負担については、学校規模が大きいと学年でやることが多いので学年会議が多くなる。若い先生方は、そのあと自分の学級の仕事をすることになる。

部会長 ありがとうございます。2つの違いは大きい。平日の勤務時間の表を見ると、11時間までは中学校の方が長い。さらに、小学校は遅

くなる。中学校は遅くなるが部活が終わり、しばらくして帰る。小学校は遅くまで残っている。今は、そういう状況があるかはわからないが、おそらく今もある。小学校は、学校で採点を仕上げてしまいたいといった、学校の仕事は学校でという考えがある。もう一つは、家庭に向けての連絡事項が多い。その日のあったことを電話で連絡する。そして、その電話が長くなる。一般の労働者としての時間管理の仕方は、学校では難しい。今やらないと、後でもっと仕事が増えるという要素がある。どうしても先の考えると、今時間をかけることが労働力減になると考えてしまう。長時間勤務する先生が、いい先生という考えはあるが、受け止め側の方としては時間を超えて子どもにかかわった取組をしている先生は、信頼されているというところが現実にある。教師の意識改革よりも、保護者、社会全体の意識改革がどうなのか。この改革に、本当についてきてくれるのかと感じる。割り切った勤務体制をどう受け止めてもらえるか。

部会長 一度出してみないと。ちょっとした壁にはなるが、受け止めて対応していかなければならない。こういう啓発は、事務局は、教育委員会としての改革に取り組む進めるうえでの地域への啓発はしているのか。

事務局 昨年度、週に一日部活動を休むといった、保護者向けに手紙を出している。保護者の中から、問合せがあったのも事実。だからこそ、今、やっていく時期なのでは。今回、働き方改革をやっていくことは、前へ一歩踏み出すいいタイミングなのでご意見等いただけたらと思う。

部会長 ありがとうございます。教員や地域の意識を含めて変わりつつあると感じた。変わらないのではと感じていたが・・・。生駒市の調査した資料にもとづいて、改革にかかわってそれぞれの思いを出していただく。今日は、これでいいか。

委員 知っておかないといけないということで教えてほしい。定時と残業、仕事の持ち帰りの内容などの基準や定時と残業の違いという概念があるのか。持ち帰りのルールがあるのか教師の裁量なのかを教えてもらいたい。

事務局 勤務時間は8時30分から、5時15分。学校によっては15分ず

れることも。持ち帰りの内容は、子どもたちの成績に関するものは持ち帰りができないようになっている。データも同じ。どうしても必要な場合は、各学校に配布している USB を貸与している。パスワードをかけているが、基本、個人情報を持ち帰ることができないと周知している。

委員 よろしいですか。成績処理のために持ち帰らないと回らない現実があり、USB で持ちかえるほど・・・。

事務局 成績処理の中には通知表の処理だけではなく、テストの採点等も含まれている。

部会長 丸付けは多い。教師の勤務は、残業手当がつかない代わりに、若干上乘せがある。残業という感覚がない。遅くまで残るという感覚はあるが、残業というイメージがないのではないか。丸付けは、頑張っって残っってやるか、朝にやるか、家でするか人によって違う。

委員 ノー残業デイやクロックアウトが設定される学校があり、こういったことを保護者に知らせる必要がある。19 時で閉ると保護者に示さないといけない。電話をセットしておいて、19 時以降になったら、今日の業務が終わりというメッセージが流れ、学校へ電話しても通じないということを知ってもらわないといけない。部活のことに関しても、いかに地域の方に理解してもらうかが大切。しかし、緊急時の対応は考えておかないといけない。19 時までと突っぱねてしまうのは、教育の現場ではできないので、うまく兼ね合いを考え、準備しておく必要がある。

委員 担任の電話番号は知らないのですか。

委員 通常は知らない。携帯番号等は教えない。

委員 何かあった時に困るのではないか。

委員 家に帰ってから、携帯を使うと着信が残るので結果的には教えていることになる。夜中に電話しないといけないこともある。あるいは、保護者からかかってくることもあるため、線引きのむずかしさがある。

部会長 これが一番難しいところ。システムのには留守電話があれば線引きはできるが、緊急の場合、学校に電気が点いているのに出ないということは、保護者感情としてどうか。しかし、こういうことも踏まえて踏み出さないと進まない。壁やいろんなマイナス面もあるが、認識、確認しながら前へ進めていく方向で検討していきたい。ここまでのところで事務局から何かあるか。

事務局 今までの意見を聞くと、サイボウズでの時間管理、部活動のこと、教材研究等での勤務時間の課題、保護者対応についてあがっている。さらに、ご意見があればお願いしたい。

部会長 サイボウズや様々な意見をいただいている中で、踏み込んだの意見をお願いしたい。なければ、これからの話し合いを進める上で、どういう形で進めていけばいいのか意見をいただきたい。確実に進められるのは、文部科学省から出ているものを一つずつ生駒市の現状と照らし合わせ、検討していくのがやりやすい。しかし、4回の部会では進めきれないため、ポイントを絞って話し合いを進めていきたい。事務局としては、文部科学省から出されているものをすべて検討するということか。次回に向かって、今日の話合いの整理も含め事務局の方から、事前にいただけると思うが、文部科学省の中身と生駒市の現状調査の結果を踏まえての話合いと照らし合わせながら、3つから5つぐらいポイントを絞ってきていただきたい。その中で重複するものは重複するものとして考え、違うものはプラスして、検討していくということで一つの方向性を出していきたい。文部科学省 業務改善をベースに生駒市としてできることを考えるにあたり、項目でもいいが、広い意味でも結構。この点について、議論が必要ではないかという点で絞り込む。事務局が外してほしくない点も話していただけたら、方向性の一つとしてお願いしたい。

委員 資料1の初めの下、「勤務時間に関する意識改革、学校における働き改革を進めるにあたっての必要な予算の確保に努めてまいります」というのは、定員増も含めてか。

事務局 様々な部分で文部科学省は、予算要求を国へ挙げていると思う。県は、実際のところ努力はしていただいている。

部会長 英語の専科の先生の準備も含めて予算化が進めようとしているので。

事務局 英語の専科ですが、市内の小学校に1名配置されている。

委員 市費ですか。事務局 県費で1名です。

委員 幼稚園はないか。

事務局 幼稚園は市の職員である。

部会長 英語は、今後の課題になるとは思いますが、小学校の先生は大変だと思ふ。

委員 採用試験時には、英語はなかった。今後、採用自体も変わってくるのではないか。

部会長 英語は、今後の課題になる。

#### (4) 今後の部会開催スケジュールについて

事務局 (今後の部会開催スケジュールについて、事務局から説明)

部会長 第2回の全体会、意見交換とあるが、環境向上部会がメインの全体会か。この部会からの提案があるという意味か。

事務局 全体会の議案の一つにこの部会の案件が中心となるのではないかと思います。

部会長 他の部会からの提案もあるのか？

事務局 現時点ではない。ただ、今月、ほかの部会の会議等もあり、報告は出てくると思う。案件という形で図っていただき議論するのはこの部会のみと思う。

部会長 全体会の日程はいつ頃わかるか。

事務局 9月に入ってわかるのではないかと思います。

部会長 今後の部会日程を可能な限り決定し、見通しを持っていきたい。  
ワークショップは場所時間が決まっているか。

事務局 場所は大会議室。後日連絡する。

部会長 ワークショップは、可能な限り傍聴したいと思う。時間の都合が  
つけば、委員の皆さんにも聞いていただけたらと思う。第2回  
は、8月29日午前中。9時30分よろしいですか。第3回  
は、9月18日15時30分から。第4回は未定。積極的に意見を  
いただけて、これから具体的なところに踏み込んで進めていき  
たい。お忙しい中ありがとうございます。

委 員 余談だが、教育実習生が「この業務を40年間も続けられる  
か。」と心配していた。これからの若い芽を摘まないようお願い  
したい。

部会長 ありがとうございます

## 要点

### (1) 会議の進め方について

ワークショップを含め、第3回までに一つの方向性を出していく。

### (2) 働き方改革に関する国等の状況について

教員だけでなく、保護者や地域といった、それぞれの立場で持っている意  
識改革が必要である。また、一般の労働者における働き方改革とあては  
まらない。具体的に見ていくには、生駒市の現状を見つめていく必要があ  
る。

### (3) 本市の現状について

各校、サイボウズの活用やノー残業デー、クロックアウトといった取り  
組みをしている。

校種によって、課題となる点は異なる。小学校においては、持ち帰りの  
仕事や長時間勤務の意識。中学校においては、部活動の在り方が柱とな  
る。生駒市の現状からみても、意識改革もふくめ、まず、マイナス面や  
リスクはあるものの踏み出して改革を進めていく。

### (4) 今後の部会開催スケジュールについて

第2回 8月29日 9:30～

第3回 9月18日 15:30～

第4回は未定。

これから具体的なところに踏み込んで進めていきたい。